

2025 年 6 月 26 日

株式会社イー・ラーニング研究所

**親世代の 7 割がテストなどの成績以外に「努力や姿勢も評価してほしい」と回答
「夏休み前・通知表に関する意識調査」を公表
～非認知能力の“見える化”や検定制度への期待も浮上～**

e-ラーニングに関するサービスの様々なコンテンツを提供する株式会社イー・ラーニング研究所（代表取締役：吉田智雄、本社：大阪府吹田市 以下、イー・ラーニング研究所）は、小学生の子どもがいる親世代を対象に「夏休み前・通知表に関する意識調査」を実施いたしました。

その結果、多くの親が「成績だけでは測れない力」に注目しており、通知表や学校のフィードバックに対する新たな評価指標として期待されていることが明らかになりました。また、その約9割が子どもの成長を「可視化して評価されると良い」と回答しており、今後は「検定」や「指標化」によって、客観的に非認知能力を測る仕組みへの期待も高まりつつあることが示唆されました。

=====

【「夏休み前・通知表に関する意識調査」概要】

調査方法：紙回答

調査期間：2025年5月3日（土）～2025年5月23日（金）

調査対象：子どもを持つ親、親族に子どもがいる方 計373人

※本リリースに関する内容をご掲載の際は、必ず「イー・ラーニング研究所調べ」と明記してください

=====

調査結果概要

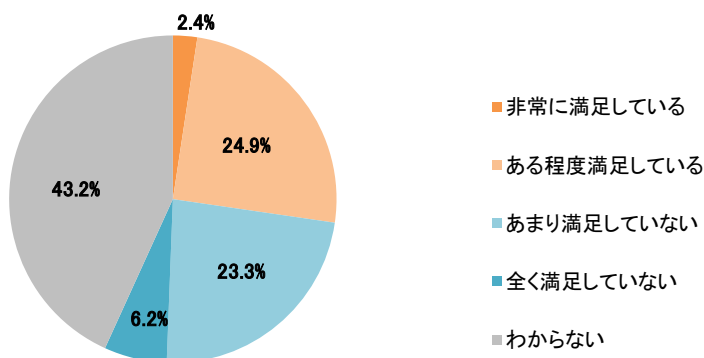
- ① **通知表に「満足している」と回答した親はわずか 3 割と、学校側の評価の意図や基準が伝わりづらいことが判明。**
⇒通知表への満足度は「満足している」は約 3 割、「わからない」が 4 割以上を占めた。現状の評価項目だけでは子どもを適切に評価しきれていないと感じる保護者が一定数おり、見直しが求められていることが考えられる。
- ② **7 割以上の親が通知表に点数では測れない部分が十分に反映されていないと回答！**
評価に求められるのは“努力”や“思いやり”など非認知能力からの視点。
⇒通知表にもっと反映してほしい内容として、非認知能力に関する回答が多数挙げられる結果となり、学力だけでなく子どもの姿勢や過程を見てほしいという声が明らかになった。
- ③ **「非認知能力は重要」と回答した親はなんと 9 割以上！**
教育の変化にあわせて評価制度の変化も求める親が一定数いることが明らかに。
⇒非認知能力の重要性を問う質問では、9 割以上の親が「非認知能力は重要」と回答。教育の変化に対して「通知表にもっと非認知能力を反映してほしい」というニーズが、数値的にも裏付けられる結果に。
- ④ **約 9 割の親が「非認知能力」に関するスキルも学校で評価されると良いと回答！**
社会に必要な力「非認知能力」を“可視化”する評価制度への期待が高まっていることが明らかに。
⇒「通知表などで非認知能力の成長が可視化されると良い」と約 9 割の親が回答し、また、夏休みを前に成績よりも“成長の過程”を重視したいという意見が多数見られた。今後は子どもの非認知能力を客観的に測定する指標の確立とともに、通知表の評価にも反映されていくことへの期待が伺える結果となった。

1. 通知表に「満足している」と回答した親はわずか3割！

現状の通知表では学校側の評価の意図や基準が伝わりづらいことが判明。

子どもがいる親世代に「子どもの学校で通知表に、どの程度満足していますか？＜SA＞」と尋ねたところ、「非常に満足している」(9)、「ある程度満足している」(93)を合わせた回答は約3割にとどまった一方で、「わからない」(161)と回答した人が全体の4割以上、「あまり満足していない」(87)は約2割という結果となりました。この結果から、学校側の意図や評価基準が保護者との間で差が生じている可能性が高く、評価方法の見直しが求められていると考えられます。

Q.子どもの学校での通知表に、どの程度満足していますか？＜SA=373＞



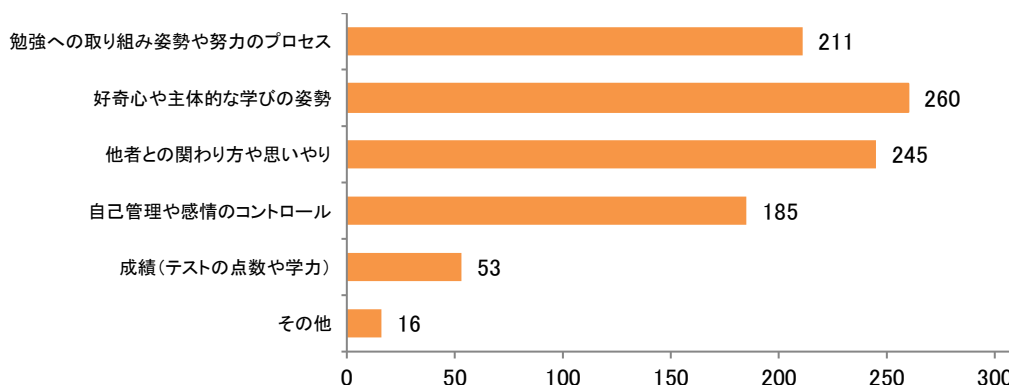
2. 7割以上の親が通知表に“成長”や“頑張り”など点数では測れない部分が十分に反映されていないと回答！

“努力”や“思いやり”など非認知能力からの視点を評価に求める親が多いことが判明。

「通知表の評価に、どのような内容がもっと反映されると良いと思いますか？＜MA＞」の問いには、「好奇心や主体的な学びの姿勢」(260)、「勉強への取り組み姿勢や努力のプロセス」(211)、「他者との関わり方や思いやり」(245)など、“非認知能力”に関する回答が多い結果となりました。

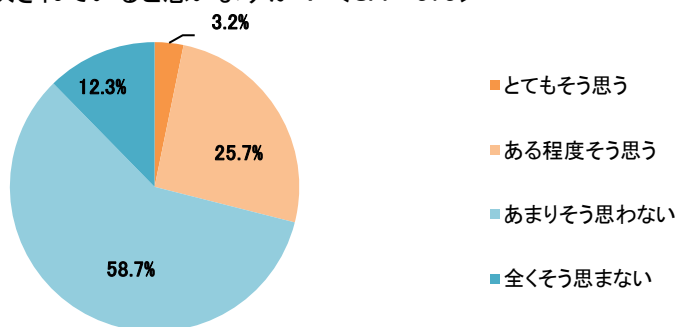
また、「子どもの通知表では『成長』や『頑張り』など、点数では測れない部分は十分に反映されていると思いますか？＜SA＞」の質問には、「あまりそう思わない」(219)、「全くそう思わない」(46)と答えた人が全体の7割に達し、このような結果から“子どもの努力や取り組む姿勢をきちんと見てほしい”、“評価に反映してほしい”と考える親が多いということが示唆されました。

Q.通知表の評価に、どのような内容がもっと反映されると良いと思いますか？＜MA=373＞



<報道関係者各位>

Q. 子どもの通知表では『成長』や『頑張り』など、点数では測れない部分は十分に反映されていると思いますか？ <SA=373>

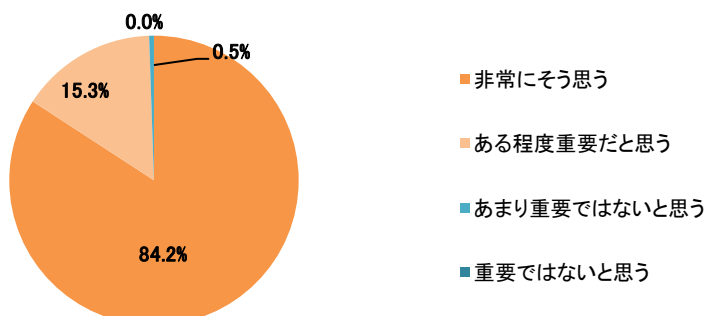


3. 9割以上の親が「非認知能力は重要」と回答！

教育の変化に合わせて通知表や学校での評価制度の変化を求める親が多いことが示唆される結果に。

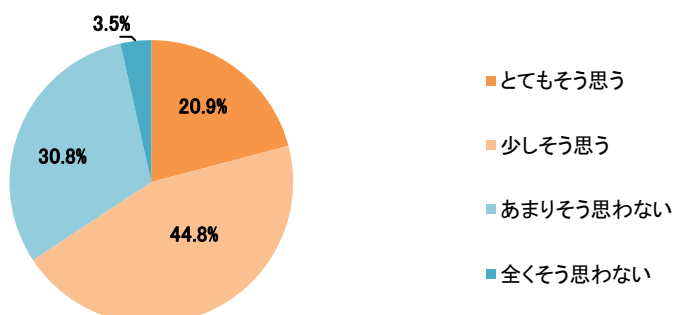
「あなたは、子どもの非認知能力（知能・学力以外の人間性、社会性に関するスキル）は重要だと感じますか？ <SA>」の質問に対して、「非常に重要だと思う」（314）、「ある程度重要だと思う」（57）と9割以上が回答し、“学力以外の力”に注目が集まっていることがわかる結果となりました。前述の結果とあわせると、非認知能力の注目が集まりつつある中、その力が評価として可視化されていない現状とのギャップに多くの保護者が課題感を感じていることが明らかとなりました。

Q. あなたは、子どもの非認知能力（知能・学力以外の人間性、社会性に関するスキル）は重要だと感じますか？ <SA=373>



また、「昔と比べて、成績や点数よりも『過程』や『人間性』を重視する教育観に変わってきていると思いますか？ <SA>」という問いに対しては、「とてもそう思う」（78）、「少しそう思う」（167）を合わせた回答が6割以上という結果になりました。通知表に反映してほしい項目や、非認知能力に注目が集まっているという調査結果を踏まえると、教育の変化に対して通知表や学校での評価制度も変わるべきであると考えている親が一定数いるということが示唆されました。

Q. 昔と比べて、成績や点数よりも「過程」や「人間性」を重視する教育観に変わってきていると思いますか？ <SA=373>

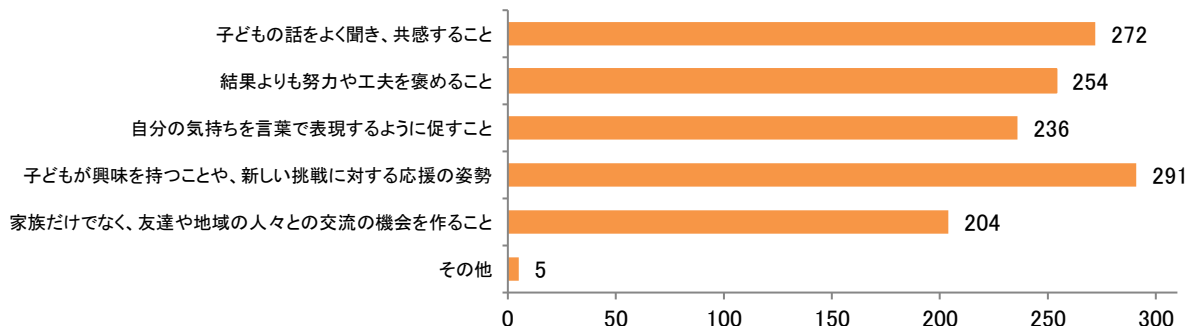


4. 約 9 割の親が「非認知能力」に関するスキルも学校で評価されると良いと回答！

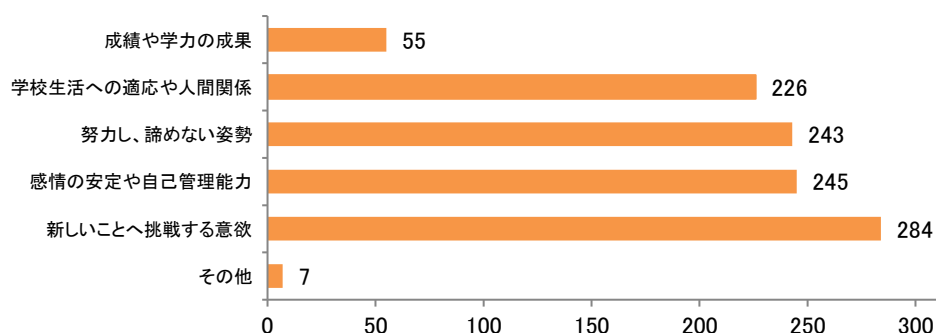
社会に必要な力「非認知能力」を“可視化”する評価制度への期待が高まっていることが明らかに。

非認知能力を育むために家庭で意識していることとして、「子どもが興味を持つことや、新しい挑戦に対する応援の姿勢」(291)、「結果よりも努力や工夫を褒めること」(254)、「子どもの話をよく聞き、共感すること」(272)など、それぞれの取り組みに意見が分かれました。また、「夏休み前に子どもの成長を振り返る上で、何を重視すべきだと考えますか？<MA>」に対しては、「成績や学力の成果」(55)は最も低く、「新しいことへ挑戦する意欲」(284)が最も多い回答数であることから、“夏休み期間の非認知能力の向上”を期待している親が多いことが考えられます。

Q.子どもの「非認知能力」の育むため、家庭内で何を意識すべくだと思えますか？<MA=373>



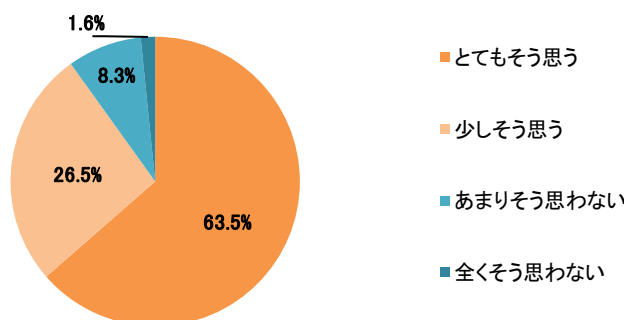
Q.夏休み前に子どもの成長を振り返る上で、何を重視すべきだと考えますか？<MA=373>



こうした関心の高さを背景に、「『非認知能力』に関するスキルの成長が通知表や学校からのフィードバックで可視化して評価されると良いと思えますか？<SA>」という質問には、約 9 割の親が「そう思う」と回答しました。

テストの点数から評価する成績だけではなく、非認知能力といった内面的な力についても、“子どもの成長のプロセス”を見える形で知りたいという保護者のニーズから、通知表や学校のフィードバックに対する新たな評価指標として期待されていることが明らかになりました。このような結果から、今後、非認知能力を客観的に測定・評価できる指標の確立や、子ども一人ひとりの“見えない力”を丁寧に伝える新たな評価のかたち、ますます求められていくと考えられます。

Q.「非認知能力」に関するスキルの成長が、通知表や学校からのフィードバックで可視化して評価されると良いと思えますか？<SA=373>



【『子ども未来キャリア』概要】

『子ども未来キャリア』は、子どものときから夢や目標を持ち、グローバル社会で必要となる知識と能力を育む、キャリア教育用ボードゲーム教材です。ボードゲームを通じた疑似体験と、スライド教材を活用した学習を組み合わせた「遊び×学び」を融合した内容で、主体的に楽しく学ぶことができます。



- URL : <https://mirai-career.jp/>
- 販売対象 : 全国の学童施設や学習塾、学校など、教育関係の企業・組織
子ども向けの体験型イベントを開催される企業等とのコラボレーション
- 教材対象年齢 : 小学生・中学生・高校生 ※その他要相談
- 学習テーマ
 - ・「教育用！資産形成ゲーム」
 - ・「教育用！コミュニケーションゲーム」
 - ・「教育用！事業投資ゲーム」
 - ・「教育用！ディスカッションゲーム」
 - ・「教育用！おつかいゲーム」
 - ・「教育用！情報推理ゲーム」
 - ・「教育用！キャリアデザインゲーム」
 - ・「教育用！多様性ゲーム」
 - ・「教育用！SDGs ゲーム」
 - ・「教育用！防災ゲーム」
 - ・「教育用！チームワークゲーム」



【『スクール TV』概要】

『スクール TV』は、「学習習慣の定着」を目的とし、全国の教科書内容に対応した小・中学生向けの動画教育サービスです。約 1,000 本のオリジナル授業動画を配信し、自ら能動的に学習する「アクティブ・ラーニング」のメソッドを日本で初めて動画内に導入しています。

また、学習習慣が身についた子どもが、もう 1 つ上の目標を目指すために開始された学習コンテンツとして、現在、教科書や教材出版社など他社のドリルも提供しています。



- URL : <https://school-tv.jp/>
- 利用料金 : 無料
有料プラン(「成績向上目的の学習コンテンツ」を有料で提供)
 - ・スクール TV プラス: 月額 300 円(税込)
 - ・スクール TV ドリル: 250 円(税込)～ ※学習教材により異なる
- 対象 : 小学生(1 年生～6 年生)、中学生(1 年生～3 年生)
- 学習内容 : 小学校 1～2 年生: 算数
小学校 3～6 年生: 算数・社会・理科
中学校 1～3 年生: 数学・社会・理科・英語・国語
- サービス特徴 :
 - 1.「授業動画が見放題」
 - ・小・中学校の教科書に対応した授業動画が見放題

- ・单元の中で「重要ポイント」に絞り込み、テレビを見るような感覚で楽しく学習できる
- ・映像総数:約 1,000 本

2.「やる気を育てる講師陣」

- ・有名大学の現役学生を講師として採用
- ・お兄さん・お姉さんのような親しみやすさを演出

3.「アクティブ・ラーニングメソッド採用」

- ・文科省が推進する主体的・対話的で深い学び「アクティブ・ラーニング」の視点を導入
- ・授業開始前の約 5 分間に「アクティブ・ラーニング動画」を採用し、子どもの興味を惹きつける
- ・定期的に質問を投げかけるなど適度に自分で考える機会を与えることで、「能動的」な学習が可能

【株式会社イー・ラーニング研究所】

名称 : 株式会社イー・ラーニング研究所
本社 : 大阪府吹田市江坂町 1 丁目 23-38 F&M ビル 6F
東京支社: 東京都港区港南 1 丁目 8-40 A-PLACE 品川 1F
代表者 : 代表取締役 吉田 智雄
URL : <https://e-l.co.jp/>